

# ひかり

一般社団法人

# 光陽福祉会

発行日 平成 25年6月 第35号

## 戦国武將に学ぶ～企業経営～

事務局長 浅野 尚美

GWが終わるともう季節は夏！！を感じさせるような汗ばむ日々。でも、暖かな日差しに心も体も軽くなった感じは私だけでしょうか？

去年の6月お中元を選びに行ったギフトショップにて、1つの額縁の書が目に留まった。

「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつけが出る」という書だった。その時は「ふ～ん」という感じだったのが、たまたま本屋さんで目に留まった「先人の名言集」にその言葉が出ていた。戦国武將「武田信玄」だった。何だかすごく惹かれたから思わず本を買って読んだ。その中で武田信玄が私の中で密かなブームになった。「ジョブサポート光成」の仕事で武將シリーズを作成することになった時、内心「私のブームとかぶってる」とドキドキしていた(笑)

武田信玄で有名なのは「風林火山」ですが、武將として戦いに勝つための攻略法、組織力、リーダー力等企業経営や様々な部分に活かすことができる名言が多くあります。

人の上に立つ立場を頂いている私が自分の心にとめてきたものは

「人は城、人は石垣、人は堀、思いやりは味方、恨みは敵である」

去年の6月からこの言葉を心にとめて、意識意欲の向上、モチベーションアップを頭に、心にこの1年職員と接してきました。

結局何をするにも「人の力」が必要。戦国時代の武田信玄も「人材の重要性」を強く認識していたということなのでしょう。

戦国時代を駆け抜けた大將には学ぶところが多くある。人を育成するのは人であり、心であると言っている。そして、リーダーとなる人間は「人を見る目、見極める目」が必要と言っている。戦国武將たちが学んでいたものに「孫子の兵法」ある。つまりリーダーの条件、5つ。

「智」～敵に優る智恵

「信」～心正しく偽りがなく部下の信頼を集めること

「仁」～思いやりやいたわり

「勇」～ことに臨んでよく忍耐し、危険を恐れずなすべきことを行う力

「厳」～はじめをはっきりする厳しさのこと

この5つの条件を心にとめ、さらに私の好きな名言を形として深めていきたいと思います。

追伸 ウォルトディズニーの4つの「C」も好きです。1つは「好奇心」

皆さんもしよかったら調べてみてください。

# きっずサポートはぐくみ

## 遊びの中で

大島 由美子

『毎日が一生懸命です』

この春、入園(所)を迎え通園がスタートした子、年中さん・年長さんに進級した子。そして新しくはぐくみの仲間となった子。

各々が新しい環境の中で新たな生活をスタートさせました。

はぐくみでも新しい仲間が2人加わって、新たなメンバー構成のもと新しい関係作りを築き始めているところです。

新しくはぐくみの仲間となった子ども達にとっては、初めての母子分離、同年代の仲間との小集団『社会』の中での生活となります。そして旧メンバーにとっても今までとは違った仲間関係が生まれ、築かれていくこととなります。

おもちゃの取り合いや療育中・生活の中での待つこと、順番を守ること、そのような場面から子ども達は相手の存在を意識し始めます。そしてそこからルールやマナーを知ること、“我慢”することも覚えていきます。

毎度のようにおもちゃの取り合いでトラブル発生!となるのですが、喧嘩していた子ども達がいつの間にか楽しそうに一緒に遊んでいる姿も日常茶飯事。子ども達はぶつかり合いながらも、自分の中で葛藤しながら様々なことを学んでいるのですね。

この小さな『社会』の中でいっぱい泣いて・笑って・・・ぶつかり合いながらたくさんのことを学んでいってほしいと思います。



何して遊ぼうか？



みんな仲良し☆

『作って遊ぼう!』

○△□♡・・・4つの段ボールを用いて4種類の形(型)の色紙を貼り付け、みんなでかわいい模様の箱作りをしました。

型合わせよりも～“紙をペタンと貼る”事に精一杯の子ども達。でも近くに行き「どっちと同じ形かな？」と一緒に確認すると→「あっ!こっちだ!」とばかりに同じ形に気がついて同じ形の集まりの所にペタン。形の理解が難しい子は指差して示した所を目指しペタン。①両手・指先を使って貼る②よく見て位置を確認して貼る その2点を意識して、みんなオリジナルの箱が完成!!

箱の中に入って遊んだり、箱を積んで遊んだり、いつの間にか玩具入れになっていたりとみんな可愛く模様付けした箱は、みんなの遊び道具の一つになりました。



○をペツタン



♡をペツタン



# サポートセンターつぼみ

## 学習

島塚 立江

「入学おめでとう」「進級おめでとう」子ども達に声をかけたのがついこの間だったのに・・・早いものでもう衣替えの季節ですね。

さて、今回は少し前から療育に加わった「学習」の様子をお伝えします。「学習・・・なにをやるんだろう」「学習って何だか難しそう」親さんは心配されているかもしれませんが、子ども達には意外と好評です。

「これからつぼみの勉強を始めます。今日は学習です」と挨拶すると「今日は何やるの?」「ふで箱がいるね」と子ども達はやる気十分。

「学習」と一口に言っても部屋ごと、また個人で内容が違います。例えばカードを使って学習する子。絵カードで認識の度合いを確認し図柄と名称を一致させます。2枚の絵カードを見せ「〇〇どっち?」で正解を指せる子。たくさんの絵カードの中から「〇〇取って?」で正解をさがし出せる子。「これは何?」と絵カードを見せ言葉で名称が答えられる子。カードを2枚組み合わせ合わせて1つの絵を完成できる子。

数学カードでは数字を並べたり数字を読んだり、カードだけでもたくさん学ぶことができます。何よりカードを使っての学習は子供達がとても楽しそうで瞳がキラキラ輝いています。

また、プリントを使い授業形式の学習もしています。鉛筆を持って直線・曲線を引いたり、迷路や違いを探す間違い探しなど楽しみながらできるものからひらがな・漢字の国語や、数学・計算などプリントと言っても多種多様ありその子に合ったものを行います。繰り返し行うことで、確実にしていくと共に前回これができたから今回これに挑戦してみようとして少しずつ難易度を上げていくことも大切です。



これだ!



学校でもお家でもない友達との勉強☆



見つけられるかな?



# サポートセンターつぼみ

#からはみ出ないように



いくつあるのかな？



みんな真剣に机に向かっていきます



何時かな？



「え～わからん」「ここどうやるの？」と自分から聞いてくれたら大進歩！

「あっわかった！」「できました」の声は子ども達の達成感が表れています。この元気な声を聞くと私たちも「ヤッター」と思わずガッツポーズ！！

高校生ではプリント学習を中心にしていますが、その他にも新聞を読んで内容を確認したり折込チラシを見て食事のメニューを決め材料は何が必要か考え、それが決められた予算の範囲内で買うことができるのか自分で考えるなど生活に密着した内容も幅広く盛り込んでいます。

その日に行った学習内容、使った教材、お子さんの様子などは連絡ノートや振り返り表でご家庭にお伝えしています。

定着しつつある「学習」

子ども達に「やった！今日は学習だ」と喜んでもらえるように、子ども達の「学びたい」という意欲を引出興味を持って向き合える内容にしていきます。



# 第2サポートセンターつぼみ



## 自然体験

石野 恵

早いもので第2サポートセンターつぼみが開所して2カ月が過ぎようとしています。少しずつ慣れてきた子どもたちの姿に変化が見られるようになりました。お友達の名前を覚えて話しかけている子や、〇〇くんいるかな…等つぼみで会えることを楽しみにしている子。子どもって本当に仲間を作っていくことが早いんですよね。きっと心配して送り出した保護者の方を余所に、ご家庭の中で知らない子の名前が飛び出てくることにびっくりされているのではないのでしょうか？また、言葉はなくても遊びの輪の中に入り一緒に遊べるようになった子、取り組み中にお友達を気遣うなど、仲間として意識して一緒に学ぶ事ができるようになりました。「そこは違うよ こうするんだよ」と教えてくれる子など様々な姿を見せてくれます。

そんな仲間意識が強くなった第2つぼみで新たに始まった療育活動をご紹介します。



地域の方の御協力を得て自然体験を始めました。人間は土に触れているとたくさん効果を得られることを知っていますか？

～土に触れる事で3つの効果を得られます～

### ①心理的効果

土を触る 作物・植物を育てることで視覚・触覚・聴覚・嗅覚・味覚の五感を刺激します。またその中で感受性や感情を豊かにします。

### ②身体的効果

土や苗・植物などを運ぶ事で体を動かしたり、立ったりしゃがんだり、普段は使わない筋肉を無理なく楽しく使えます。

### ③環境的効果

太陽の光を浴びることで自然と体が丈夫になります。特に日光に当たるとカルシウムの吸収を助けるビタミンDを体の中でたくさん作ることができます。そして、マイナスイオンたっぷりの空気を吸ってリラックスできます。

こんな良い事尽くしの活動が始まりました。

その中でこんな事にポイントを置き取り組んでいます。

イチゴ狩りでは、苺の赤色や実っていない緑・葉っぱの緑・澄んだ空の青を見る(視覚)ことで気分を落ち着かせてくれ、また「これから何をやるの？」と自然と好奇心が高められ取り組みました。実際に手に取り触れる(感触)ことにより素材の感触を楽しみました。茎から苺をもぎとるときは指先の強さ(力加減)指の使い方(動かす方)に視点を置き子どもたちの指先の動かす方を見させてもらいました。手首を上手く回してもぎ取ることができず引っ張ってしまう子がいたり、何回も何回もチャレンジし、手首を上手く使い苺が取れた子。いろんな場面で見せる子どもたちの表情が印象的でした。

苺を摘むときは「優しくつぶれないように」と声をかける中で、言葉の理解と行動を見せてもらいました。言葉からのイメージが何処まで理解され行動として表現されるか…などなど。そして自然の中で響く鳥のさえずりや、風が吹き渡る音を聞き(聴覚)気持ちよく帰ってきました。つぼみの中では甘酸っぱい苺の匂い(嗅覚)を吸い込みながら、数の学習。お皿に取り分けておやつとして頂きました。口に広がる甘酸っぱさ(味覚)を味わいました。

今回の自然体験は今後形を変えながら継続させていきたいと考えています。その中で土の感触・土の匂い、苗が成長し実がなった時の喜び。このような体験を通して子どもたちの自信や達成感、食べる事への興味関心を引き出していきたいと思っております。更に土に触れる3つの効果を期待しながら子どもたちに多くのもので得られるようにしたいと考えています。